

■ はじめに

キヤノンマーケティングジャパン製品をご愛顧いただき誠にありがとうございます。
このリリースノートには、ESET Server Security for Linux V10.0（以降、本製品と記載）を正しくご利用頂くための情報が記載されています。
本製品をインストールする前に必ずお読みください。

■ インストール前の注意事項

本製品をインストールする前に、以下の内容を確認してください。

- ・ 本製品をインストールする前に、すべてのプログラムを必ず終了してください。
- ・ 本製品以外のウイルス対策ソフトウェアがインストールされていないことを確認してください。本製品以外のウイルス対策ソフトウェアがインストールされている場合は、必ずアンインストールしてください。
- ・ 本製品をインストールする場合は、root 権限（スーパーユーザー）でインストールしてください。
- ・ 本製品はセキュア OS の AppArmor には対応しておりません。
- ・ 本製品をインストールするには OS リポジトリに接続できる必要があります。
- ・ 本製品のインストール時に不足しているパッケージについてはインストール時に合わせて OS リポジトリから取得しインストールされます。
- ・ 本製品のインストールを行う前に、導入されているプログラムをアップデートしてください。
- ・ 本製品は、ESET File Security for Linux V4.5 からの上書きインストールには対応しておりません。

- ・ 本製品をインストールするコンピューターに前提となるプログラムが導入されていることを確認してください。また、以下記載のパッケージバージョンは予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

弊社では以下の kernel で動作検証を実施しております。

- kernel 3.10.0-1160/kernel 4.18.0-477/kernel 5.14.0-284 にて実施
- AWS kernel の場合、kernel 4.14.301-224 にて実施
- SUSE Linux の場合、Kernel 5.14.21-150400 にて実施
- glibc 2.17 以降のバージョン
- elfutils-libelf-devel (RHEL8/9, Amazon Linux2, AlmaLinux に必要)
- libselinux (RHEL, CentOS, Amazon Linux2, AlmaLinux に必要。
最新パッケージをご利用ください)
- en-US.UTF-8 エンコーディングロケール

- ・ 本製品をインストールするコンピューターには、上記のほかに次のプログラムがインストールされます。

RHEL, CentOS, SUSE Linux, Amazon Linux2, AlmaLinux に
必要とされるパッケージ

- openssl
- kernel-devel
- gcc
- perl

RHEL, CentOS, Amazon Linux2, AlmaLinux に必要とされるパッケージ

- kernel-headers

SUSE Linux に必要とされるパッケージ

- kernel-default-devel
- kernel-macros
- linux-glibc-devel

※ 不足している記載パッケージと依存性関連のパッケージが OS リポジトリより取得、導入されます。

■ 製品マニュアルについて

本製品のマニュアルにはオンラインヘルプとオンラインヘルプ補足資料があります。
はじめにオンラインヘルプ補足資料を確認してください。
オンラインヘルプ補足資料は「ユーザーズサイト」よりダウンロードすることが出来ます。

ユーザーズサイト

https://canon-its.jp/product/eset/users/index_fs.html

オンラインヘルプ

<https://help.eset.com/essl/10.0/ja-JP/>

■ 使用上の注意事項について

本製品を使用する前に、以下の内容を確認してください。

□ kernel バージョンについて

本製品のリアルタイムファイルシステム保護は以下記載の kernel バージョンを揃える必要がございます。

RHEL, CentOS, Amazon Linux2, AlmaLinux

- kernel, kernel-devel, kernel-headers

SUSE Linux

- kernel-default, kernel-devel, kernel-default-devel, kernel-macros

□ パフォーマンス除外の登録について

本製品で WebGUI を開き、「設定>検出エンジン>基本>パフォーマンス除外」から特定のディレクトリ配下にパフォーマンス除外設定を行う際、以下のように設定ください。

設定例) パフォーマンス除外で「/root」配下を除外する場合
パフォーマンス除外設定に「/root/*」と登録する

□ プロセス除外に登録するパスについて

本製品でプロセス除外を行う場合、登録するパスにシンボリックリンクが含まれていると除外されない現象を確認しています。

設定例) プロセス除外設定に「vi」を登録する場合

/bin/vi : 「/bin」がシンボリックリンクのためプロセス除外されない
/usr/bin/vi : プロセス除外される

プロセス除外が機能しない場合は登録したパスにシンボリックリンクが含まれているかをご確認ください。

□ en-US.UTF-8 ロケールについて

本製品をインストールする環境に en-US.UTF-8 ロケールが必要です。

en-US.UTF-8 ロケールがインストールされていない場合、RHEL7/CentOS7 は「yum install glibc-common」、RHEL8/9/AlmaLinux は「dnf install glibc-langpack-en」にてロケールをインストールすることが可能です。

□ セキュアブート環境でのアップデートについて

セキュアブート環境で本製品のアップデートを行う場合は、アップデート後に再度カーネルモジュールを秘密鍵で署名する必要があります。作業手順についてはオンラインヘルプをご確認ください。

https://help.eset.com/essl/10.0/ja-JP/secure_boot.html

□ アップデート時に表示される警告について

旧バージョンよりアップデートを行う際、コンソールに「警告：ファイル /var/opt/eset/efs/bin/Modules: 削除に失敗しました: そのようなファイルやディレクトリはありません」と警告メッセージが表示される場合があります。

アップデート後の製品動作に問題ありませんのでそのままご利用いただけます。

■ 既知の問題について

本製品には、以下の問題と制約があります。

これらの問題については、将来のリリースで修正される可能性があります。

最新の情報につきましては弊社製品ホームページの Q&A をご確認ください。

ESET 製品 Q&A ページ：

<https://eset-info.canon-its.jp/support/>

プログラムの変更点について

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/23078?site_domain=server

□ リスニングアドレスを空欄にしてポート番号を変更するとポート変更ができない

本製品の WebUI よりポート変更をする際、リスニングアドレスを空欄にしてポート変更を行うと、変更したポートに変更できず、WebUI にアクセスできない現象を確認しております。

現象が発生してしまった場合、コマンド「`/opt/eset/efs/sbin/setgui -i <IP>:<Port>`」にてポート番号を変更することが可能です。

□ SELinux が導入されていない環境でアップデートを実行するとコンソールにエラーが表示される

本製品を旧バージョンからアップデートする際、SELinux が導入されていない環境でコンソールに「`/var/tmp/rpm-tmp.wARwrm: line 31: semodule: command not found`」と表示される現象を確認しています。

アップデート後の製品動作に問題はありませんのでそのままご利用いただけます。

■ 製品情報

本製品に関する情報は、以下の URL から参照することができます。

ESET 製品ページ：

<https://eset-info.canon-its.jp/business/>

ユーザーズサイト：

https://canon-its.jp/product/eset/users/index_fs.html

オンラインヘルプ

<https://help.eset.com/essl/10.0/ja-JP/>